

回覧

地域再生 協議会だより

百合が丘 2-29-6(老人憩いの家) 59-9356(火・金午前) isshiki-saisei@grace.ocn.ne.jp

自治会基盤の新組織へ

再生協の後継で方向付け

地域再生協議会(岡村昭寿会長)は2月10日(水)に本部会議を開き、令和4年度に地区内自治会を基盤とする後継組織の発足を目指すことを確認した。当日は、これまでの議論、町との調整を踏まえて作成した事務局提案をもとに議論。従来の国・町からの資金助成を前提にした組織を自治会ベースに切り替え、地域づくりとコミュニティスクール(CS)・生涯学習の支援を中心に活動する方向を打ち出した。各自治会での意見調整と新組織の形態、町のバックアップ内容などを詰めたうえで、今秋までに新発足のめどをつける。(以下、裏面へ)

<再編の骨格>

- ・一色小学校区で町、教育委員会の支援・協力を得て、「地域とともにある学校づくり」と社会教育を含めた「学校を核とした地域づくり」に取り組む
- ・学校づくり(CS支援)、住民の生涯教育に力を入れ、「自立運営」を目標にした「地域・まちづく活動」を継承する
- ・新組織は、地区内自治会主体の構成とし、その他の広域的課題についても連携・協力する



「フニクリ フニクラ」「少年時代」「ジュピター」

——やまゆい合唱団の新課題曲決定

音楽活動部会(三浦憲門部会長)は新年度の合唱課題曲を上記3曲とすることを決め、やまゆい合唱団員に楽譜を配布した。ウイルス感染の鎮静化、練習会場の確保など安心して活動が再開できる見通しがつき次第、練習に入る。

同合唱団は昨年春以来活動を停止したまま。パート別練習などこれまで何度か再開の可能性を探ってきたが、いずれも見送ってきた。現時点でも再開のめどは立っていないが、練習環境が整い次第動きだせるように曲目や練習スケジュールなどを関係者に伝えた。

課題曲は、イタリア民謡「フニクリ フニクラ」、井上陽水・詩曲の「少年時代」、ホルスト作曲「ジュピター」というバランスを重視した構成。指導は桑田葉子、一石洋子、高寺真美の3先生。練習日は原則第2・第4日曜の午後4時～6時とし、場所は百合が丘児童館ホール。新規団員は現団員を通じて呼びかける。発表の機会も、一昨年同様に年度内に4、5回を予定している。

提案によると、新組織の仮称は一色小学校区地域・学校づくり協議会。百合が丘、緑が丘、一色地区の全自治会(含む地区会)を核に、その他地域団体、県住宅供給公社、有力個人などに参加を呼びかける。中心的な活動は、現在の協議会事業を引き継ぎ、CS 支援、友情の山、こうりゅう塾(生涯学習)、音楽活動、健康散策などテーマごとに部会を設ける。併せて、活動全般を調整する態勢も必要としている。

事業活動は、部会ごとの自律的運営を前提とし、自治会などからの助成金もその中に組み入れる。これら構成主体の形成やバックアップの資金調達に関しては、百合が丘自治会、一色地区会が助成してきた生涯学習推進会を再編して新組織の下地とする、との案が検討されている。

また二宮町では、CSの目標である「地域とともにある学校づくり」を、「学校を核にした地域づくり」へと展開する方向を検討しており、新組織による CS 支援に加え、住民の生涯学習、社会教育分野での支援、連携が期待できる見通し。ただ、これらの具体的な中身はまだ流動的で、各自治会での意見調整とともに、最終案が固まるまでには時間がかかると思われる。

当日に出された主な意見は以下の通り。

- ・「新しいステージでの継続には、組織は地域が担い、町は活動をバックアップする形が良い」
- ・「安定的に活動を続けるには、事務局のような機能が大事になる」
- ・「自治会の理解、協力が鍵になる。しっかりやれば、将来の連合自治会へとつながっていく」
- ・「自治会中心と言っても、その合意を取り付けるのは簡単ではない。経費だけでなく、取りまとめの機能も重要だ。役員の交代期でもあるので、新年度に入ってからしっかり議論したい」
- ・「活動資金をどうするか、事務局をどうするかがポイントだ」
- ・「町から地域活動助成金が出ているので、自治会も地域振興に関わる必要がある。具体的にどうするかは簡単ではない」
- ・「一色小のCSは3年目を迎え、着々と進んでいる。放課後子供教室などはメニューもほぼそろっており、新しくやる余地はそんなに多くない」
- ・「町からの提案にある生涯学習の分野はほとんど手がついていない。高齢化が進む中で重要だ」
- ・「今後、町の窓口はどこになるのか。行政の支援の中身、連携・協力の内容を早くまとめるべきだ」
- ・「組織、人の問題などを詰めないと次のステップに進めない。夏休み明けまでにははっきりさせたい」

友情の山の補植、「ハンカチの木」も



一色小・友情の山で計画している補植の樹種が決まった。コブシ、クロモジ、マユミなど 12 種類で、3 月 13 日(土)に植え付ける。先月末に行った樹種調査をもとに一色小、森林コーディネーター、地域の植物愛好家などと打ち合わせていた。その結果、一色小児童の自然教育に役立てるためには、友情の山にはない湘南の固有種、子ども達の興味を引く種類を中心に選ぶことにした。

12 種の中を見ると、比較的めずらしい方ではオオシマザクラ、ヤマボウシ、ユズリハ、ヤマナシなど。希少種では、白いハンカチのような花を咲かせるハンカチの木(写真)などが入った。13 日には、友情の山部会員が作業に当たる。